

東海道56番目の「枚方宿」

品川宿から数えると56番目にあたる宿場町。豊臣秀吉が整備した京街道は江戸時代になると東海道の延長部として枚方宿が設置され、淀川を行き交う三十石船の中継港としても賑わいました。

枚方をかたちづくったのは、先人の歴史。

ありわらのなりひら
在原業平が詠んだ、七夕と桜

「交野ヶ原」と呼ばれた一帯は平安貴族が狩りを楽しむ場所でした。歌人の在原業平は天野川のほとりで七夕伝説になぞらえ「狩り暮らし たなばたつめに宿からむ 天の河原に我は来にけり」と詠みました。また、惟喬親王の別荘・これたか渚院で詠んだ「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」は、古今和歌集などによって広く世に知られるところとなりました。

1500年前に天皇が即位

日本書紀によると、継体天皇は西暦507年に樟葉くずはのみやで即位したと書かれています。樟葉宮跡の位置は明らかではありませんが、現在の交野天神社かたのてんじんしゃ付近とされています。

枚方で栄えた百済王の子孫

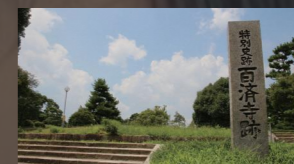
「百済王(くだらのこにぎし)氏」とは、7世紀に滅びた朝鮮半島の古代国家・百済国の王の末裔のこと。その子孫、百済王敬福きょうふくは、東大寺の大仏造立に際し黄金900両を聖武天皇に献上した功績から上流貴族の位を与えられました。一族は8世紀半ばに枚方の中宮に移り住んで栄え、「百済寺」を創建したと考えられています。



禁野車塚古墳(国史跡)
4世紀前半築造と考えられる全長120mの前方後円墳。



牧野車塚古墳(国史跡)
4世紀後半築造と考えられる全長107.5mの前方後円墳。



百済寺跡(特別史跡)
8世紀後半に百済王氏が建立。昭和42年には全国初の史跡公園に。



巖島神社 末社春日神社本殿(重要文化財)
一間社流造、檜皮葺で、室町時代中期の建築と考えられます。



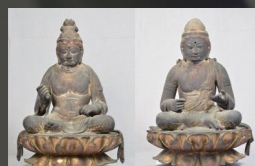
交野天神社本殿・交野天神社末社八幡社本殿(重要文化財)
一間社流造、檜皮葺。室町時代中期に遡る枚方市内の古建築としては最古。



片埜神社本殿(重要文化財)
慶長7(1602)年に豊臣秀頼が片桐且元を総奉行に再建。桃山時代の華麗な様式をよく示しています。



楠葉台場跡(国史跡)
江戸幕府が京都防衛のため勝海舟を設計総責任者として築造した。砲台を持つ要塞跡。全国唯一の河川に面した台場。



清泰寺木造菩薩坐像(重要文化財)
京都国立博物館へ寄託。平安時代前期(9世紀前半～半ば)頃。



尊延寺 木造降三世軍荼利明王立像(重要文化財)
平安時代後期(11世紀前半)頃。



枚方宿鍵屋資料館
江戸時代、枚方宿の代表的な船待ちの宿だった主屋と昭和初期の別棟を整備し、平成13年オープン。



旧田中家 鋳物民俗資料館
江戸時代に鍋・釜などの日用品や梵鐘などを鋳造していた田中家の鋳物工場と主屋を移築・復原し昭和59年オープン。